

リーダーシップ力育成プログラムの 実施と効果の検討

廣田 有里*・黒崎 輝人**・佐藤 毅***

1. はじめに

江戸川大学では、2008年度より学習支援室を開設し、新生が大学生活にスムーズに移行できるようにサポートを行ってきた。更に、「学生リーダー」の育成に着手し、新生のアドバイザーとして機能し始めた。学生リーダーとは、各学科各学年から選抜された2名ずつが、新生の履修指導や新入学時の相談に当たる体制のことである。学生リーダーは、他にもオープンキャンパスでの学校全体の紹介や、新生ガイダンスの進行やサポート等の役割も果たしている。学生リーダーの役割は、ここに挙げたオープンキャンパスやガイダンスでの目に見える仕事だけでなく、学生全体の見本になり、学生全体に与えるプラスの影響も大いに期待している。

学生リーダーは各学科から2名ずつ選抜されるが、必ずしも生まれながらのリーダーの資質を持っている学生ばかりではない。ほとんどの学生が、初参加時は学生リーダーが務まるのか不安に思えるくらいである。そこで、「新生が安心して相談できる先輩」になれるように、春期休暇期間と夏期休暇期間の年2回、4泊5日の合宿を実施している。

リーダーとは、組織の方針を決定し、命運を左右するような重大な意思決定を行う存在であり、

2012年11月30日受付

* 江戸川大学 情報文化学科准教授 ソフトウェア工学

** 江戸川大学 人間心理学科教授 史学一般、日本史

*** 江戸川大学 マス・コミュニケーション学科教授 日本文学

生まれながら備わっている資質によると考えられがちである。正しくは、リーダーシップとは提案や説得などのコミュニケーションにより、個人やグループを良い方向に持っていく力のことである。リーダーシップは組織の先頭に立つ者だけが発揮するべき力ではなく、ちょっとした活動をする小グループや、それこそ一対一のコミュニケーションにさえ活用できる力だといえる。

本研究では、学生が社会に出るために身に着けるべき力である「リーダーシップ力」育成を、学生リーダー組織において実践し、効果を検証する。「リーダーシップ力は生まれながらに持っている力ではなく、育成できる力である」、また、「マニュアル化することにより誰にでも実践できる教育である」といった仮説検証に実証的に取り組んだ成果を報告させて頂く。

2. 学生リーダーの学内での役割

学生リーダーの大きな役割の1つは新生のアドバイザーである。その他にも、学内にはいくつかの活躍の場がある。ここでは、学生リーダーと学内での役割について述べる。

学生リーダーは各学科から毎年7月頃に1年生から2名ずつ決まり、役割は4年生まで続く。しかしながら、必ずしも選抜された全員が役割を継続できるわけではないので、学科や学年に人数のばらつきがある。現在の総数は29名で、所属学科の分布は表1のようになる。

学生リーダーの1年間のスケジュールを通して学生リーダーの役割を説明する。

表1 学生リーダーの所属（2012年10月現在）
(人)

	人間心理	経営社会	現代社会（ライフデザイン）	マスコミュニケーション	情報文化
1年	3	0	1	3	2
2年	1	1	1	2	3
3年	2	0	2	3	1
4年	1	1	1	1	0

学生リーダーへの所属は7月頃に決定するため、学生リーダーの1年間は夏期合宿から始まる。8～9月の夏期休暇期間に実施する夏期合宿で学生リーダーの役割の確認と、リーダーシップ力養成の教育を受ける。9月になり後期講義が開始したら、オープンキャンパスの補助や、その他のボランティア活動に参加する。次年度の「情報リテラシー」科目の補助を行う一部の学生リーダーは、1～2月に授業補助の講習を受講する。春期休暇が始まった2月に春合宿を行い、4月からの新入学生のサポートに備える。新年度のスタートである4月は、学生リーダーの本格的な活動の場となる。4月初めの新入生ガイダンスに出席し、自己紹介と「ぜひ自分のところに相談に来るように」との頼れる先輩のアピールを行う。4月は、新入生の履修登録などの相談および情報リテラシー科目の補助があり、最も忙しい時期となる。

表2に、学生リーダーの主な仕事をまとめる。

表2 学生リーダーの年間スケジュール

月	主な仕事
4月	学部別ガイダンス進行 学科ガイダンス受付 健康診断受付 PC配布誘導 履修登録相談（約2週間） 情報リテラシー補助（前期中）
5月	江戸川ウォーク補助
7月	新学生リーダー選抜
9月	夏期合宿

10月	流山市民まつりボランティア
11月	学園祭補助 ホームカミングパーティー受付 韻文コンテスト設営
12月	卒業論文回収ボランティア 合宿不参加者指導
2月	春期合宿
3月	卒業式誘導補助 卒業記念パーティー補助
通年	オープンキャンパス

3. リーダーシップ力育成プログラム

本学では、学生リーダーのリーダーシップ力を養成するために夏期休暇期間と春期休暇期間に合宿を実施している。ここでは、2012年度の夏期合宿のプログラムについて具体的に紹介し、参加学生の成果物と日誌より、その効果について述べる。

3.1 夏期合宿のプログラム

2012年度の夏期合宿は、福島県にある国立磐梯青少年交流の家で9月1日～5日の5日間のプログラムで行った。海外研修実施期間であったため、参加学生は18名、引率教員4名であった。

5日間の大まかなスケジュールは表3に示す。

表3 夏期合宿プログラム

	時間	内容
1日目	4限	ファシリテーションプログラム
	19:00	全脳思考ファシリテーションによる夏期合宿の目標設定
2日目	8:30	一般常識と日本語のテスト
	1限	マインドマップ基礎講座
	2限	マインドマップによる自己分析
	3限	学生リーダーの仕事の確認
	4限	火おこし体験と野外炊飯
	19:00	

3 日 目	8:30	一般常識と日本語のテスト
	1限	言葉と動作の効力
	2限	挨拶・礼儀作法・立居振舞
	3限	自己紹介文作成と添削
	4限	
	19:00	
4 日 目	8:30	一般常識と日本語のテスト
	1限	自己紹介訓練～言葉と動作～
	2限	
	3限	
	4限	
	19:00	
5 日 目	8:30	一般常識と日本語のテスト
	1限	討論会～新入生の気持ち～
	2限	夏期合宿の目標の反省

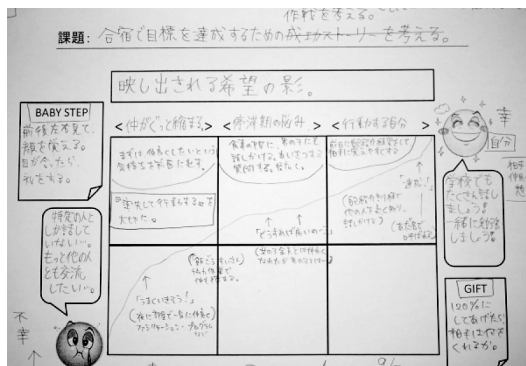


図1 全脳思考ファシリテーションによる目標設定

夏期合宿での目標設定では、120%ハッピーにしたいのは合宿を終えた日の自分であると想定し、合宿中のシナリオを作っていくことで、自分がすべき行動を見直し、考えていくことができる。

2日目の「マインドマップによる自己分析」で、3日目に行う自己紹介文の基礎となる自己分析を行う。自己分析のためにかけたマインドマップを図2に示す。

マインドマップとは、「思考の見える化」を行うツールといわれており、頭の中のアイデアをまとめることから講義のノート取り、ブレインストーミング等に広く利用されている。

夏期合宿の自己分析では、初めに基本的なマインドマップのかき方を習得し、最終的に「名前」「大学」「活動」「強み」というブランチ（発想の元）で自己分析を行った。

このプログラムの第一の目的は、自分を発見し、表現する方法を学び、自信をつけること。第二の目的は相手の立場（具体的には新入生）に立ってものを考えられるようになること。そして、最終的な目的は新入生に頼りがいがある先輩として自己紹介できるようになることである。

自信と表現力、客観性がコミュニケーション力、ひいてはリーダーシップ力につながると考え、先輩と新入生という限定した立場であるが、実現できるように組んだプログラムである。

1日目に行う「全脳思考ファシリテーションによる夏期合宿の目標設定」では、全脳思考ファシリテーションというツールを用いて合宿で達成したい目標を設定し、初めの第一歩を決める。全脳思考ファシリテーションを実行して目標を定めた図を図1に示す。

全脳思考ファシリテーションとは、120%ハッピーにしたい特定の個人を想定し、望む結果を得るまでのシナリオを作っていくツールである。一般的な企業の分析ツールは、過去のデータから分析を始めるのに対し、このツールは未来のあるべき姿から始めることにより異なる発想が生まれる点に特徴がある。

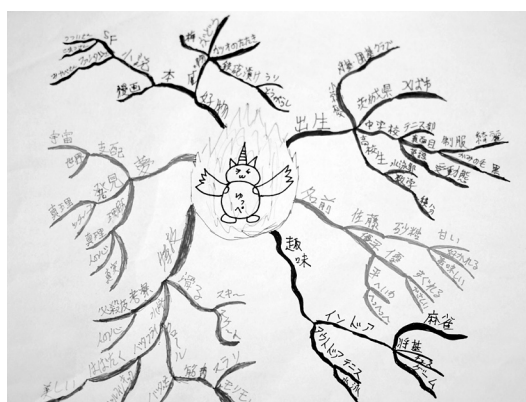


図2 マインドマップによる自己分析



図3 発声練習の様子

3日目は「言葉と動作の効力」という講義で「伝える」方法と「鳥の目（全体性）」「魚の目（社会性）」という視点が大切だということ、コミュニケーションのコツ、定型と個性について学び、自己紹介文に何を含めるべきかを考えさせた。その後、「挨拶・礼儀作法・立居振舞」で実際に体を動かして歩き方・立ち方・お辞儀の仕方を学び、ステージに上がり人前で話すことに備えた。しゃべり方としては、「外郎売」という歌舞伎十八番の一つを繰り返し読み滑舌を良くし、息継ぎを置く場所のコツを教えて人前で話すことへ自信を持たせた。練習の様子を図3に示す。

4日目は自己紹介文の発表と評価・修正を繰り返し、自己紹介を完成させた。

最終日である5日目は、最初に設定した目標を到達できたかの確認をし、合宿の締めとした。

3.2 効果と考察

学生リーダーの合宿では、学生一人一人が「学生リーダー合宿の記録」という日誌を付けている。日誌に記述する主な内容は、「合宿日課」「考察記録」で、「合宿日課」にはその日のスケジュールを、「考察記録」には日々の日課の中で得たものや反省を記述している。

「考察記録」の中から、自己紹介に向けてのステップとして効果が見られた記述、学生の意識の変化や成長が感じられる記述を抜粋して紹介する。

学生リーダーとしての自覚が芽生えた、もしくは

は再認識できた記述には以下のようなものがあった。

- 着飾らないありのままの自分を出して、1年生がついていきたいと思うようになりたいです。
- 学生リーダーの役割をあまり理解していませんでしたが、先生や先輩の説明を受け、自覚を持ちました。
- 来年のガイダンスに向けての練習は、自分が学生リーダーなのだ改めて感じ、責任を持ってやりたいと思います。
- 堂々と学生リーダーがやっていけば、それだけで惹かれる存在になることができると思います。
- ただ来て与えられたことをこなしていけばいいのではなく、自分達が自覚を持ち率先して動かなければならないと実感した。
- 学生リーダーの仲間とも教える、教わるの関係をもってお互いを高めあっていきたい。

合宿中に学生リーダーであることを認識し、学生リーダーとしてのプライドを持ちつつある姿がうかがえる。

自己紹介訓練による効果は、以下のような意見に表れている。

- 今回の発表で自分が成長できたことを実感できている。
- 発表で人前で話す度胸がついた
- 人前での礼儀作法を知ることができた
- 人に説明するときの方法を知った。
- 文章を作ることで、「誰に何を伝えたいのか」は、重要なことだと今回の合宿で気づきました。
- 相手の自己紹介文を見ることで、自分に吸収すべきことがたくさん見つかりました。

このように、人前で話す度胸と人に伝えるには何が大切かを学んだことがうかがえる。

また、今回は自己紹介文を作成するうえで、前

もってマインドマップによる自己分析を行ったが、異なる切り口の自己紹介ができるなどの意見があり、効果的であったことがうかがえる。

- 単語を繋ぎ合わせていくことで、自分のぼんやりとした考えが具体的なものになっていった。
- マインドマップを使用して作成した原稿は、いつもとは違う切り口で見たものになっていると思いました。
- 自分の考えをまとめたり、他の人と共有するのにとても便利なもので、しかも1つの項目について具体的に考えられるので、実際に考えていた以上に深く物事を考えられる、そういう意味でとても有用なものだと感じました。

4. おわりに

リーダーシップ力育成プログラムにより、参加学生達は確実に学生リーダーとしての自覚と自信を持つことができたといえる。

2006年に経済産業省が提唱した「社会人基礎力」には、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力が含まれており、「前に踏み出す力」のうちの「働きかけ力」や「チームで働く力」は、リーダーシップ力と共通する。就職難といわれている現在、こうしたリーダーシップ力を持つ学生は、大学の内外に広く活躍の場を見つけられるはずである。

今後は、より一層定型化した誰でも実施できるプログラムとし、学内外で利用しやすいようにしたい。

参考文献

- 1) エメット・C・マーフィー著、新将命訳：リーダーシップIQ：7つの行動指針と8つの役割，日本実業出版社，1997.
- 2) ダニエル・ゴールマン，リチャード・ボヤツィス，アニー・マッキー著，土屋京子訳：EQリーダーシップ：成功する人の「こころの知能指数」の活かし方，日本経済新聞社，2002.
- 3) トニー・ブザン，ハリー・ブザン著，神田昌典訳：ザ・マインドマップ，ダイヤモンド社，2005.
- 4) 神田昌典：全脳思考，ダイヤモンド社，2009.